

加古川良質米栽培ごよみ

令和8年産

普通栽培（10a当たり）

土づくりの三本柱

① 秋すき

稲わらは秋耕時に土づくり肥料と一緒にすき込むと、秋から冬に腐熟が進むため、未腐熟稲わらで発生する有害なガスを抑えることができます。石灰窒素（20kg/10a）施用で稲わらの腐熟促進効果があります。

わら
+
石灰窒素

② 深耕

作土層が浅くなっており、地力低下に拍車をかけています。できるだけ深耕に努めましょう。トラクターの速度を落とし、一番遅い回転でロータリー耕を行う。

効果
① 養分の貯蔵庫を大きくする。
② 肥料の効果を高めます。

③ 土壌改良資材の投入

根に活力を与え、根ぐされを防止し、倒伏や病害虫に対して強い稲となる。

土づくり資材名	投入量
土力の達人	100kg/10a
ケイカル	200kg/10a
ミネラルG	200kg/10a

- 土壌分析等による適切な土づくりを行ってください。
- レンゲ栽培田には、土壌改良資材を、すき込みと同時に散布しましょう。

食味向上のポイント

① 秋すき時～春先にケイ酸資材を施用しましょう

省力型の「土力の達人」やケイカル、ミネラルG等に含まれるケイ酸は、窒素コントロールし、稲の穂を強くします。

② 中干し前に苦土肥料を施用しましょう

苦土一番の施用を行うことにより、苦土が光合成に関与し、登熟歩合を向上させます。

③ 玄米のタンパク質含量、アミロース含量を抑える施肥管理を行いましょう。

穂肥は出穂15日前までにいきましょう。

育苗のポイント

育苗用培土の使用量の標準的な目安（育苗箱1箱当たり）

- 粒状培土2号 床土：2kg 覆土1kg
- グリーンソイル 床土：3kg 覆土1kg

浸種

種子量の4倍の水を使用。

浸種日数目安
15℃の場合は6日間
20℃の場合は4日間

催芽

ハトムネ状態になるまで浸種し、催芽する。

（ハトムネ状態）

床土消毒

床土灌水後に
ダコレート水和剤
400倍液を
500mL/1箱に灌注

播種時に灌注

播種

○ 播種量は催芽もみ
120～130g/箱

○ 種子を均一に播種する。
○ 覆土（もみが隠れる程度）

育苗

育苗箱は床面に密着させる

遮光フィルムによるトンネル育苗

80%遮光フィルム…幅230cm
（シルバーボリタ）
厚さ……………0.05mm

※ 灌水満に多く水をためると発芽不良をおこす。
特に育苗初期には水をためないで下さい。

育苗中期管理

○ 播種後、遮光フィルムにより完全密閉したままの状態を管理する。

○ 播種7～10日後、2.2葉期苗になれば遮光フィルムを取りはずす。

○ 遅れると、徒長苗になるので、右図を参考にして、よく観察し、適期に遮光フィルムの取りはずしを行う。

第一葉

3cm以下

第二葉

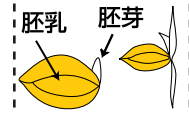
1.5cm

第二葉

0.5cm

第二葉

2.2葉期苗

品種	月	5月			6月			7月			8月			9月			10月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
ヒノヒカリ	生育のめやす		15日頃 		田植えの適期は6月8日～14日頃が良いでしょう。 12日頃 			有効分けつ決定期 24日頃 	幼穂形成期 10日頃  1.5mm 幼穂長 2.0mm	出穂期 26日頃  ・ほ場を見渡して、稲の5割が出穂した時期	高温対策 ・出穂期以降、夜温が高い時は、夕方から新鮮な水を入れ直す。			10日頃 	成熟期  早期落水防止！！ (刈り取り前5～7日まで間断灌水を実施し、品質向上に努めましょう！)				
	水管理						中干し (7/中旬～末頃)		間断灌水										
	作業	播種 (5/15頃)			基肥・代かき 防 田 除 植 (6/12頃)	防 除		追肥 (7/3頃) (7/10頃)	調整肥 ※田植から1ヶ月後を目処に1週間程度中干しをしましょう。	穂肥 (8/10頃)	防 除	防 除		落 水	刈 取 り (10/7～16頃)	秋 す ぎ			
	防除作業	※農薬の飛散防止の為に、粒剤を使用しましょう。 赤字は重要防除	田植当日 箱防除の徹底 いもち病・イナゴ類・ウンカ類・ニカメイチュウ対策 ブーンアレス箱粒剤 50g/箱 (紋枯病多発田ではフルスロットル箱粒剤50g/箱) ※苗をJAで購入される方は、薬剤が既に入っておりますので、ご自身の散布は必要ありません。		ジャンボタニシ対策 田植後～収穫60日前 スクミノン 4kg/10a				いもち病・紋枯病・カメムシ・ウンカ類の対策 ゴウケツモンスター粒剤 3kg/10a 紋枯病対策 モンガリット粒剤 3kg/10a	カメムシ・ウンカ対策 スタークル粒剤 3kg/10a または スタークル豆つぶ 250g/10a		ウンカ対策 トレボン粒剤 3kg/10a (収穫21日前まで)			出穂後40～45日を目安にする (籾の色が85%黄熟)	土づくり資材の施用			
	作業記入欄																		

ジャンボタニシ

ヒメトビウンカ

セジロウンカ

トビイロウンカ

葉いもち

穂いもち

紋枯病

カメムシ

斑点米
（カメムシの被害による）

イネカメムシ

ホソハリカメムシ

クモヘリカメムシ

アカスジカスミカ

トゲシロホシカメムシ

要注意 ジャンボタニシ対策

- ① 稲刈り後や厳冬期に、ロータリー回転を速く、走行速度を遅くして耕耘しましょう。
- ② 田面は均平に、田植後2週間は浅水（水深2cm以下）で管理しましょう。
- ③ 水口に網を張り、隣接ほ場や水路からの侵入を防止しましょう。
- ④ ほ場や水路で貝や卵を見つけたら、すぐに捕殺しましょう。
- ⑤ 薬剤は湛水時に散布し、散布後は落水やかけ流しをしないようにしましょう。

① 土づくりの実施

栽培ごよみに掲載している「土づくりの三本柱」を継続実施しましょう。

② 水管理（飽水管理）

登熟期の高温時に水を溜めっぱなしにしていると、水温や地温が高くなり乳白米が発生しやすくなります。水温が高いほ場では、かけ流しや水の出し入れを実施し、稲刈り前の落水まで続けましょう。

③ 追肥（出穂後5日頃）

登熟期の高温による品質低下や収量低下は、登熟期間中の窒素不足が1つの要因と考えられています。生育や葉色の状況を見て、出穂後に1～2kg/10aあたり窒素量を施用することで、改善効果が期待できます。

施肥基準（10a当り）

分施肥体系	ヒノヒカリ						成分総量		
	肥料名	総量	基肥	追肥	調整肥	穂肥	N	P	K
分施肥体系	アツミン	40	40				苦土・腐植の補給		
	リンスター	(40)	(40)				リン酸の補給		
	硫燐48号	30	20	10			4.8	4.8	4.8
	苦土一番	(20)			(20)		苦土・ケイ酸の補給		
	ニューかん太郎有機	30				30	3.6	1.8	3.6
成分計							8.4	6.6	8.4
省力体系	アツミン	40	40				苦土・腐植の補給		
	リンスター	(40)	(40)				リン酸の補給		
	LPコート444E-80 （140日タイプ）	60 （50）	60 （50）				8.4 （7.0）	8.4 （7.0）	8.4 （7.0）
	タキコート4771AE （120日タイプ）						8.4 （7.0）	4.2 （3.5）	4.2 （3.5）
	苦土一番	(20)			(20)		苦土・ケイ酸の補給		
成分計							8.4	8.4	8.4

（注意事項）
※ LPコートまたはタキコートは代かき直後にむらなくていねいに施用して下さい。
※ 出穂10日前頃に肥切れの稲は、硫燐48号を10kg程度施用して下さい。
※ 省力体系でも肥料切れをおこす場合がありますので、ほ場条件等により施肥して下さい。
※ 肥料のやり過ぎは、病害虫の発生や食味の低下の原因となるので注意して下さい。
※ () のリンスター、苦土一番を使用する場合は、ほ場の条件等により施用して下さい。
※ ほ場の条件や葉色の度合により施肥量を調整して下さい。
※ LPコートまたはタキコートを水田で使用する場合は、溶出後の殻が浮上することがありますので、ほ場外に流出させないように注意して下さい。

除草体系（10a当り）

除草体系（10a当り）		
初期	中期	後期
田植直後～田植後5日 ジョッキニーフロアブル 500mL	田植後7～14日 エンペラー 1キロ粒剤 1kg 田植後7～14日 エンペラー フロアブル500mL	田植後25～40日 （ノビエ4葉期まで） ツイゲキ豆つぶ250 250g 田植後25～40日 （ノビエ5葉期まで） クリンチャーバスME液剤 1000mL （収穫50日前まで）

- （注意事項）
※ 使用時期については、必ず商品ラベルをご確認ください。
※ キシュウズズメノヒエ（ヨバイ草）、セリ等多発している田では、耕起前にラウンドアップマックスロードで、事前処理をしてから、耕起作業を行って下さい。
※ 除草効果を高めるため、適期散布をして下さい。
※ 除草剤使用後、3～4日間は水深が3～5cmに保たれるように注意して下さい。
※ 浮き草・藻類の発生があると農薬の拡散が悪くなります。特に投込剤（エンペラー・ジャンボ）を使用する際は注意して下さい。
※ 雑草が残った場合は、ツイゲキ豆つぶ（湛水散布）、クリンチャーバスME液剤（落水散布）で処理して下さい。

主要な雑草



◎ 栽培履歴を記帳しましょう。

農薬散布の注意事項

- ① 風の無い時を選んで作業しましょう。
- ② 露のあるときの散布は避けましょう。
- ③ 農薬散布のときは必ずマスクをしましょう。
- ④ 住宅付近の農薬散布は十分注意してください。
- ⑤ 稲作気象台情報を参考に防除を行ってください。
- ⑥ 農薬使用については最新の登録情報を確認してください。
- ⑦ 「無登録農薬」を農産物に使用することは絶対にやめましょう。